



## easy manual vol. 3

ここでは、ユーザーの皆様から多くいただくお問合せを中心に、クリアカムの基本について分かりやすくご説明いたします。

## 目次

### No. 1 親機、子機って何？

[パワーサプライ](#)  
[メインステーション](#)  
[リモートステーション](#)  
[ベルトパック](#)  
[インターフェイス](#)  
[IFBシステム](#)  
[ヘッドセット](#)  
[GM\(グーズネックマイク\)](#)  
[延長ケーブル](#)  
[アクセサリー](#)  
[2ワイヤー・インターフェイス](#)  
[モニタースピーカー](#)  
[オンエア・アナウンス・コンソール](#)  
[キューカム](#)

### No. 2 よくあるお問合せ

[最少の組合せで必要なものは？](#)  
[チャンネルって何？](#)  
[機種はどのように選ぶの？](#)  
[ステーションの接続方法は？](#)  
[コネクターのピン・アサインはどのようになっていますか？](#)  
[ヘッドセットのコネクターピン番号は？](#)  
[結線はどのようにしたらよいですか？](#)  
[ケーブルは何を使えばいい？](#)  
[どのくらいの距離まで通話できますか？](#)  
[ヘッドセットケーブルを延長できますか？](#)  
[KB-\\*\\*\\*とV-BOXの関係は？](#)  
[KB-702やKB-722は2チャンネルなのにV-BOXは3ピン、どうすればよいの？](#)  
[呼び出しはどうなっていますか？ブザー呼び出しはできますか？](#)  
[他メーカーのヘッドセットやマイクロフォンを使用できますか？](#)  
[PK-7やCS-702をラックマウント仕様にしたいのですが](#)  
[KB-\\*\\*\\*を注文したいのですが](#)  
[RS-702とWP-6を注文したいのですが](#)  
[ターミネーションって何？](#)  
[何で3本線なの？](#)

## No. 1 親機、子機って何？、機器の種類は？

クリアカムの一般的なパーティーラインシステムは何種類かの商品によって構成されます。それらの商品はいくつかのグループに分類されます。それが親機とか子機なのですが、クリアカムでは商品構成が豊富なため、もう少し細かくグループ分けされています。

以下はそのグループと主な特徴です。

### ●パワーサプライ

クリアカムシステムに DC 電源を供給します。通話機能は持っておらず電源のみの供給となります。設置場所などの問題で通話機能が不要な場合や、ステーションの数が多く DC 電源が足りなくなる場合のバックアップなどとしても使用できます。

なお、接続できるステーションの数には制限がありますので詳しくは各製品の仕様書等を参照してください。

パワーサプライには AC 電源が必要となります。単に"電源"と呼ばれることもあります。

製品例: PS-704、PS-702、PK-7

### ●メインステーション

いわゆる"親機"と呼ばれているものです。クリアカムシステムに電源を供給するほかに、通話機能も持っています。

メインステーションは名前の意味合いからも中心となる場所に設置されます。

なお、接続できるステーションの数にはパワーサプライ同様に制限がありますので詳しくは各製品の仕様書等を参照してください。

パワーサプライには AC 電源が必要となります。

製品例: MS-704、SB-704、MS-702、CS-702

★通常のシステムではパワーサプライかメインステーションのいずれかが必要となります。また、システムによっては複数のパワーサプライやメインステーションが使用されたり、複合して使用されたりする場合もあります。

### ●リモートステーション

いわゆる"子機"と呼ばれているものです。形状(ラックマウントタイプやパネルタイプ)やチャンネル数などによって様々なモデルを選択することができるようになっています。

電源はパワーサプライやメインステーションなどから供給されますので、パワーサプライやメインステーションに接続されていないと使用できません。

製品例: RM-704、RM-702、HB-704、HB-702、KB-702(GM)、KB-701、KB-722GM

### ●ベルトパック

リモートステーションのなかで"腰ぶら下げタイプ"のものを特にベルトパックと呼びます。その名の通りベルトに引っ掛け、移動しながらも手元で操作できるようになっています。

製品例: RS-701、RS-702、RS-703

### ●インターフェイス

クリアカム以外のインターカム・システムと通話を行う場合に使用します。

例えば以下のようなシステム間の橋渡しを行うユニットです。

- ・クリアカムとカメラ・インターカム
- ・クリアカムとワイヤレス・インターカム
- ・クリアカムと他の音響機器

電源はリモートステーション同様パワーサプライやメインステーションなどから供給されますので、必ずパワーサプライやメインステーションに接続されるようにしてください。

製品例: IF4W4、TW-47、EF-701M

## ●IFB システム

「インターラプト・フォールド・バック・システム」のことで、詳細につきましては別途お問合せください。

## ●ヘッドセット

前述のステーションのみでは原則として通話はできません。通話を行うためにはヘッドセットが必要となります(一部の商品においてはマイクロフォンやスピーカーが内蔵されたものも用意されています)。

ヘッドセットはヘッドフォンとダイナミック・マイクロフォンが組み合わされたものとなっており、片耳、両耳をはじめいくつかのモデルから選択できるようになっています。

また、様々な用途に対応できるようにハンドセット(電話受話器タイプ)や PTT(プッシュ・トゥ・トーク)マイクなども用意されています。

製品例:CC-300、CC-100、CC-26K、CC-32 他

## ●GM

「グーズネック・マイクロフォン」のことで、GM 取り付けがオプションで可能となっているステーションに装着して使用します。

GM 装着が可能なステーションにはスピーカー内臓のものもありますが、これによってヘッドセットを使用せず、ハンズフリーで通話することもできるようになります。

製品例:GM-9、GM-18、GN-250、SN-450

★内蔵スピーカーとグーズネックマイクでの使用を考えている場合もヘッドセットを用意しておくことをお勧めします。これは舞台などで使用の際、本番中にはスピーカーの使用ができず、また、小さな声で話さなくてはならないため、ヘッドセットでの使用の方が適しているからです。

なお、特に音漏れが関係ない調整室などではヘッドセットを使用しなくても問題ないと思われるので、どのようにするのかは使い勝手をよく検討された上でお決めください。

## ●延長ケーブル

接続のケーブルやコネクタにつきましては後述しますが、ここでは商品扱いとなっているケーブルについて述べます。

### 6ピンコネクタ用

通常の接続には3ピンXLRタイプのオス-メスケーブルを使用できます。逆に言えばステーションに付いているコネクタが3ピンXLRということになるわけですが、これは1本のケーブルで1チャンネル分の信号を扱う場合となっています。

ですから、通常(3ピンXLR)の接続には市販のいわゆる"3ピンマイクケーブル"を使用することができるようになっています。

ところが一部のモデル『RS-702』や『V-BOX 6ピン仕様』では6ピンXLRタイプのコネクタが使用されています。これは1本のケーブルで2チャンネル分の信号を扱う時に用いるのですが、通常の市販品ではないため、特注製作やお客様の方で仕様に合せてお作りいただくこととなります。

6ピン延長ケーブルにつきましては弊社での標準製品とはしておりません。特注品にて承ることは可能ですが、製作仕様例を掲載しておりますのでお客様側で手配していただくことが可能です。

### ヘッドセット延長用

お問合せをいただくなかで比較的多いのがヘッドセットのケーブルをもっと長くしたいということです。結論から言えば原則として延長はできません。

ヘッドセットは前述のようにヘッドフォンマイクロフォンが1つになったものです。接続コネクタは4ピンXLRタイプが1つで、もちろんケーブルも1本になっています。つまりヘッドフォンの信号とマイクロフォンの信号が1本のケーブルのなかに同居しているかたちとなります。

ご存知のようにヘッドフォンとマイクロフォンの信号のレベルは大きな差があります。

このため、1本のケーブルの中で距離が長くなると信号の回り込みが起きて発振し、使用できなく

なってしまいます。

ですから、ヘッドセット・ケーブルの延長は原則としてできないのですが、それでもどうしても延長したいという場合が出てくることもあります。

この場合に用いるのがヘッドセット延長ケーブルです。ただし上記の理由によりメーカー側での保証値は 3m までとなっています。

★この延長ケーブルやヘッドセットに使用されているケーブルはマイクロフォン側とヘッドフォン側がそれぞれシールドされた特殊なものとなっていますので、単なる 2 芯シールド線などは使用することができませんので注意してください。

弊社ではエムアイティー株式会社様が販売されているモガミ電線株式会社様のヘッドセットケーブルを使用した IHE-03 のご使用をお勧めしております。

### ●アクセサリ

クリアカムシステムを構成するうえで、仕様によっては必要になってくる"その他"の商品です。ウォール・プレートやマトリックス・ボード、ラックマウント・キットなどになります。

製品例:WP-2/6、HSP-1、FL-7 他

### ●2 ワイヤー・インターフェイス

延長ケーブルの項でも述べましたが通常は 1 本の 3 ピン XLR(2 芯シールド)ケーブルで 1 チャンネルの信号を扱うようになっています。しかしこの 2 ワイヤー・インターフェイスを用いることによって 1 本のケーブルで 2 チャンネル分の信号を扱えるようにすることができます。

ただし、これもあまり一般的なものではなく、使用できるステーションが限られたり、一部機能が省略されたりするなど、使用上の制限もありますので選択の際には当社スタッフまでご相談いただくことをお勧めします。

製品例:TWC-701 (対応機種:RS-703)

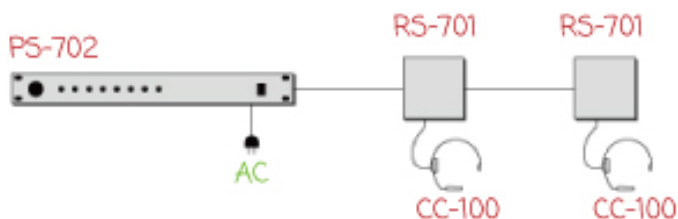
## No. 2 Q&A

### ●最少の組合せで必要なものは？

最少単位は 2 ヶ所です。この 2 ヶ所さえ把握してしまえばあとは必要数のステーションを足してゆけば大丈夫です。

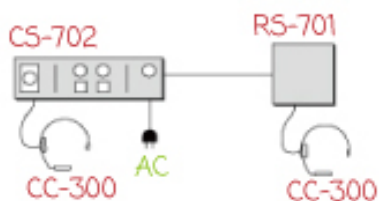
では具体例ですが 2 通りの考え方ができます。まず 1 つ目ですが、2 ヶ所ということですので子機とヘッドセット等を 2 組用意します。子機は移動用に適したベルトパックを選んでみました。あとはそれらを駆動させるための電源があれば即 2 ヶ所での通話が可能になります(例図-1)。

\* 例図-1 2 ヶ所での組合せ例 - その 1



もう 1 つは子機と電源の組合せの代わりに親機を用いる方法です(例図-2)。

\* 例図-2 2 ヶ所での組合せ例 - その 2



1 と 2 の考え方の違いですが、電源や親機は AC 電源に接続しておかなくてはならないため、それ自体は原則として移動させないと思われます。しかしベルトパックは移動のための子機ですので 1 の場合は 2 ヶ所とも移動が自由となります。それに対して 2 の場合は子機側のみの移動が自由ということになります。

### ●チャンネルって何？

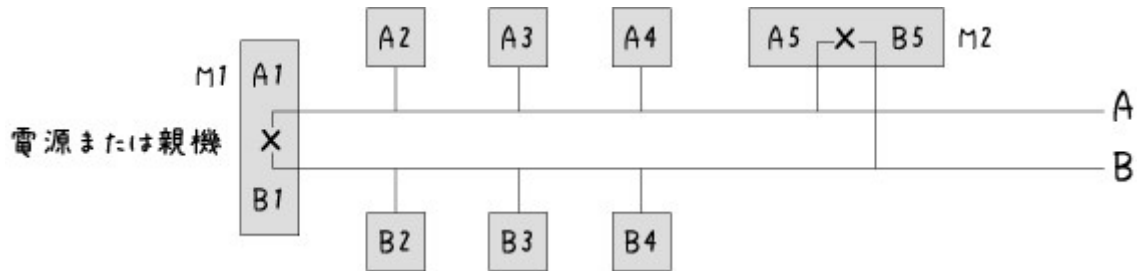
通常のクリアカムステーションには 1 チャンネル、2 チャンネル、4 チャンネルのものが用意されています(電源と親機については 2、4 チャンネルのみ、またチャンネルは A、B、C、D という表示になります)。

通話は同じチャンネルに接続されているステーション同士の同時通話となりますので、例えば A チャンネルに接続されているステーションが 10 台であれば、この 10 人での同時通話となり、1 人が話すとき他の 9 人すべてに聞こえることとなります。

また、B チャンネルに接続されているステーションが 6 台であれば、6 人での同時通話となるわけですが、A チャンネルと B チャンネルはつながっていないので A チャンネルと B チャンネルの間では通話できません。ただし、パワーサプライやメインステーションにはチャンネルをリンクするスイッチが装備されており、全てを 1 システムにすることも可能です。

なお、2 チャンネルのステーションを用いたときは 2 システムのグループと通話ができますが、あくまでもそのステーションに 2 チャンネルの信号が独立して接続されているということになり、そのステーションにおいて 2 チャンネルの通話が接続されるということではありません(例図-3)。

\* 例図-3 チャンネルの振分けのイメージ



- ・A1～A5とB1～B5によるそれぞれのグループ間の通話は可能だが、A、B間での通話は不可
- ・M1及びM2はA、B両チャンネルのモニターと単独または両チャンネルへの送話が可能。ただしAとBがリンクされるわけではない(ただし、リンクスイッチによって、A、B間通話が可能)

もし、すべてのステーションが同時通話で構わないならば1チャンネルのみでよいのですが、例えば音響系と照明系に分けて使用したいという場合には例図-3のようにシステムを分けて使用することができます。このシステム分けのプランニングは実際の使用において非常に重要なポイントとなりますので専門の業者や弊社までご相談ください。

### ●機種はどのように選ぶの？

最少組合せにつきましては前述の通りですが、では具体的にはどの機種を選べばよいのでしょうか。クリアカムはその多彩なシステム形成が大きな特徴となっていますが、一方でどのようなシステムを形成するかによって使い易さの成否が決定されます。言い換えればシステム自体は複雑に見えても使用者にとっては便利な場面もありますし、簡単そうなシステムでも非常に使いづらい場合もできます。前述のように2ヶ所での通話の場合でも2通りの考え方ができ、さらに親機や子機もいくつかのモデルから選択ができるようになっており、その組合せは無限です。

では非常に簡単ではありますが、機種選択の考え方の一例を記します。

#### ①使用したい場所を決める

②どのような形態で使用するのかを決めて、機種を選定する(ラックマウント、ベルトパック、ポータブル、壁埋込み、内蔵スピーカー有無等々)。電源、親機、子機ともに形状や機能が異なったものが用意されているので、カタログや仕様書等において機種を選んでください。

基本的にはこれだけで良いのです。

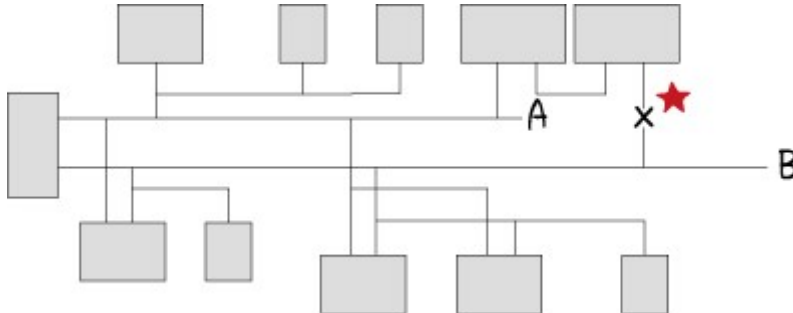
このあとの接続などについては後述します。

### ●ステーションの接続方法は？

全てのステーションがパラ接続になっている状態であれば問題ありません(AC コンセントのタコ足接続のイメージで結構です)。通常、電源や親機を起点として考えますが、異なったチャンネル間は接続しないようにしてください(例図-4)。

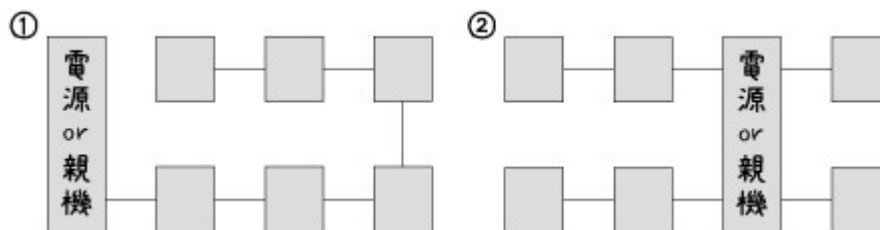
また、基本的にはパラ接続で問題はありませんが、各ステーション間が短くなるようにする方が理想的と言えます(例図-5)。

\* 例図-4 ステーションの接続イメージ



★印のところのように異なったチャンネル間が接続されないようにしてください。

\* 例図-5 接続の理想イメージ



上図の場合、①より②の方が良い。イメージとしては距離が離れてゆくと電圧降下は避けられないので、できるだけ各端末が電源や親機から近くなるような結線にすることが理想です。

### ●コネクターのピン・アサインはどのようになっていますか？

通常のステーションには3ピン XLR タイプが用いられています。また、RS-702、2チャンネル・ベルトパックは6ピン XLR タイプとなっています。さらに KB や HB などのパネルタイプのリモートステーションはスクリーターミナルブロックコネクタとなっています。

ポータブルで利用できるステーションについては、すぐに入手できる3ピンの"マイク・ケーブル"や"キャノン・ケーブル"が使用できます。ただし RS-702 や V-BOX の6ピン仕様については前述のように6ピン XLR タイプを使用したケーブルを使用します。

また、HB、KB 等のパネルタイプのステーションは壁埋込み設置を想定しているために、スクリーターミナルブロックコネクタを使用しています。なお、KB タイプのステーションにはオプションの V-BOX を組み合わせることにより、ポータブル仕様として使用することもできるようになっています。

一方、ヘッドセットについては4ピン XLR が用いられており、インカムラインとの誤接続もされないようになっています。

実際のピン・アサインは以下の通りです。

●ステーションのコネクターピン番号は？

XLR3ピン			
1ピン	グラウンド(コモン)	PS-704,	CS-704,
2ピン	電源 DC30V	MS-702,	MS-704,
3ピン	通話信号	SB-704,	RM-702,
		RM-704,	RS-701,
		V-BOX 等に使用	

XLR6ピン		
1ピン	グラウンド(コモン)	RS-702、V-BOX(6ピン・オプション)、WP-6 等に使用
2ピン	電源 DC30V	
3ピン	B チャンネル通話信号	
4ピン	A チャンネル通話信号	
5ピン	プログラムインプット※	
6ピン	プログラムインプット※	
※6ピンに仕様変更された V-BOX の 5、6 番ピンは結線されていません ★前述の6ピン延長ケーブルも 5、6 番ピンは結線されていません ☆Clear-Com で使用されている 6 ピンは ITT 及びスイッチクラフト互換タイプです。ノイトリック製の場合は NC6FS 及び NC6MS タイプとなりますのでご注意ください		

5ピン ブロックターミナル		
1ピン	シャーシ	KB-702、KB-722GM、HB シリーズ等に使用
2ピン	A チャンネル通話信号	
3ピン	B チャンネル通話信号	
4ピン	電源 DC30V	
5ピン	グラウンド(コモン)	
★他のステーションとの接続のときは必ず"グラウンド"間を接続してください、ただし1ピンのシャーシには接続しないでください ☆シャーシ(1ピン)とグラウンド(5ピン)は接続しないでください ※下表の場合も同様です		

5ピン ブロックターミナル		
1ピン	シャーシ	KB-701 に使用
2ピン	プログラム入力	
3ピン	通話信号	
4ピン	電源 DC30V	
5ピン	グラウンド(コモン)	

●ヘッドセットのコネクターピン番号は？

ヘッドセット	
1ピン	マイクシールド
2ピン	マイクライン
3ピン	ヘッドフォンシールド
4ピン	ヘッドフォンライン



### ●結線はどのようにしたらよいですか？

今まで述べてきたことからもお分かりいただけるように、クリアカムシステムの組合せは無限です。接続についても非常に複雑に見えるかもしれませんが、しかしながら基本は至って簡単で、グラウンドはグラウンド、電源は電源、インカムラインはインカムラインといったように、各ラインが正しく接続されていれば特に問題はありません。

### ●ケーブルは何を使えばいい？

いわゆる2芯シールド線と言われるものです。これは1系統(チャンネル)に1本使用することが基本です。ですから、2系統(チャンネル)の場合は2本のケーブルを使用してください。マルチ・ケーブルの使用もできないことはありませんが、クロストークや途中で機器が接続されている場合は信号のロスも多くなりますのであまりお勧めできません。また、ケーブルは太い方が理想ですが、使い勝手の問題もあると思いますので以下を参考にしてください。なお、文中のケーブルの型番は「カナレ電気株式会社」様製のものですが、同等品であれば問題ありません。

移動や仮設システムの場合や、設備などのベルトパックの接続に使用する場合で3ピンXLRコネクタが使用されているもの、つまり抜き差しを多く行うときは、扱い易さや入手のし易さという点からも、4E6Sを用いた通常"マイク接続ケーブル"とか、"キャノン・ケーブル"と呼ばれるものの使用がお勧めです。

同じく6ピンXLRコネクタの場合は、前述のアクセサリの項でもご紹介した6ピンの延長ケーブルを使用してください。もし、ケーブルを作成する場合には2チャンネルのマルチ・ケーブルを用いてください。この場合は常設ケーブルとして使用するわけではないので<M202-2AT>を用いていただければ問題ははありません。

配管内や機器間などでケーブルを引き回す場合は2T2Sがお勧めです。接続距離が350m以下であれば4E6タイプでも問題ないでしょう。また、短距離や引き回し場所の制限がある場合は2E5ATの使用も可能ですが、一部に限ることをお勧めいたします。

2チャンネル以上の場合はチャンネル毎に1本のケーブルを使用してください。マルチ・ケーブルはお勧めできません。

なお、設備等での配線の場合は途中での分岐や接続される機器などによって、必ずしも良い条件で行えるものとは限りません。ですからできるだけ良質のケーブルを使用してください。

特に近年では規模が大きく、また配線距離の長いシステムが増えてきています。このとき問題になるのがケーブルの線間容量です。前述のように2T2Sをお勧めしているのは4E6よりも線間容量が低いからです。

★2チャンネルの引き回しの場合(6ピン延長ケーブルや工事で2チャンネル引き回すとき)に4E6や4E5タイプのケーブルの中を分けて使用できないかというお問合せをいただくことがありますが、これは絶対に避けてください。これらのケーブルには信号線は4本入っていますが、あくまでも1チャンネル用のものとなっています。もし、無理やり2本ずつに分けて2チャンネルとして使用した場合、正常な使用は保証できません…というよりも、発信やクロストークなどの問題で利用できるレベルに達しないものとお考えください。

### ●どのくらいの距離まで通話できますか？

通話距離については使用するケーブルやステーションの数によっても異なってきますが、一般仕様としては約1500mとなります。それ以上の場合については別途お問合せください。

なお、距離については接続されるステーションの台数によっても異なってきますので、規模が大きなシステムにつきましては弊社までお問合せ下さい。

### ●ヘッドセットケーブルを延長できますか？

原則としては延長できませんが、専用の延長ケーブルを使用していただければ3mの延長が可能となっています。

詳しくは4Pの[ヘッドセット延長](#)をご参照ください。

## ●KB-\*\*\*とV-BOXの関係は？

KB-702、KB-701、KB-722GM はパネルタイプのステーションとなっているため、背面にカバーはありません。これは通常、壁などに埋め込んで使用するためなのですが、移動として使用するためのポータブルボックスである V-BOX が用意されています。なお、露出や埋め込みの場合は4ヶ口の電工ボックスへの取り付けが可能ですのでそちらをご利用ください。

★なお、V-BOX への装着はユーザー様側で行なっていただくことになっておりますので弊社からの出荷時はステーションとボックスが別々となっております。

## ●KB-702 や KB-722 は 2 チャンネルなのに V-BOX は 3 ピン、どうすればよいの？

### KB-702+V-BOX

KB-702 はスイッチで A、B チャンネルを切り替えることができる2チャンネルタイプとなっております。一方、V-BOX はポータブルボックスということもあって標準では1チャンネル、つまり3ピン仕様となっております。

通常、KB-702 を V-BOX に装着させるときは、すでに V-BOX の XLR コネクタに結線されている 5 ピン・ブロック・メス・コネクタを KB-702 のオス・コネクタに差し込みます。このとき1chのステーションとして使用する場合、つまりボックス側が3ピンの場合はKB側のディップスイッチを1ch用に設定しなければなりません(KB添付の説明書をご参照ください)。これにより KB-702 は見かけ上、1ch ステーションとして使用することができます。逆に2chとして使用の場合はディップスイッチが2chモードになっていなければなりません。

2ch 仕様の KB-702 ステーションを V-BOX に装着して使用する場合、V-BOX を3ピン仕様から RS-702 と同じように6ピン仕様に変更しなければなりません。

V-BOX の6ピン仕様はオプション(有料)として当社にて変更を行うことができますので、御発注時にご指示をお願いします。

### KB-701+V-BOX

KB-701 は1チャンネルのステーションですので、V-BOX は3ピンのままで問題なく、6ピンに変更する必要はありません。

### KB-722GM+V-BOX

KB-722GM は2チャンネルのステーションですので、V-BOX は6ピンにしなければなりません。従って仕様変更が必要となります。

## ●呼び出しはどのようになっているのですか？ブザー呼び出しはできますか？

クリアカムシステムの呼び出しはコールランプによって行うようになっています。これは一斉通話のため、同じチャンネルに接続されたステーションのどれか1つのコールボタンを押すとすべてのステーションのコールランプが点灯します。

このように原則的には呼び出しはコールランプのみですが、モデルによってはトーンアラート(プププという電子音)による呼び出しも可能です。このトーンアラートの設定はオン/オフが可能です。

## ●他メーカーのヘッドセットやマイクロフォンを使用できますか？

クリアカム・ブランド以外の製品で利用できるヘッドセットやマイクロフォンはカタログに掲載されている製品のみになります。

クリアカムの標準ヘッドセットはダイナミック・タイプですので、スペックさえ適合していれば他社の製品も使用することができますが、その場合のシステム上のスペックは保証できません。またトラブル等につきましても対処できかねますのでご注意ください。

またグーズネック・マイクロフォンにつきましてもクリアカムのカタログ掲載品を使用してください。

### ●PK-7 や CS-702 をラックマウント仕様にしたいのですが

PK-7 や CS-702 はいわゆる”お弁当箱”タイプのためラックマウントはできません。

### ●KB-\*\*\*を注文したいのですが

KB-\*\*\*ステーションは前述のとおり、パネルタイプとなっています。壁埋込や露出の場合は4個口の電工ボックスを用いることができますが、持ち運びの場合は V-BOX と組み合わせて使用するようになっています。もし KB-\*\*\*ステーションを使用する場合に適した BOX が必要となりますので事前の確認をお願いします。発注リストなどで KB-\*\*\*ステーションのみがある場合には BOX は含まれませんので注意してください。

### ●RS-702とWP-6を注文したいのですが

WP-2 や WP-6 はクリアーカム用のコンセントプレートです。感覚的には電源コンセントと同じで、通常はベルトパックや V-BOX を接続して使用します。ですから設備工事の場合は移動用ステーションを接続したいところにこのコンセントプレートを設けておきます。このコンセントプレートさえあれば自由にステーションを接続できますのでたいへん便利です。

#### WP-2

WP-2 は 3 ピン XLR オス座が付いたコンセントプレートです。

チャンネル切り替えのスイッチが付いており、2系統のインカムラインを接続しておき、そのスイッチによってどちらかのチャンネルを選択して使用するようになっています。

もし1系統のみで使用する場合にはスイッチを機能させない結線をしてください。この WP-2 は 3ピン XLR 仕様ですので接続されるステーションも3ピンタイプのもとなります。つまり、RS-701 や V-BOX (3 ピン標準仕様) を接続する場合に用いられます。

#### WP-6

WP-6 は 6ピン XLR が付いたコンセントプレートです。

つまり RS-702 や V-BOX (6 ピン改造仕様) を接続する場合に用いられます。

ただし、コンセントプレートのピン数と接続されるベルトパックや V-BOX のピン数に注意してください。WP-\* には 3 ピンと 6 ピンのものがあります。また、RS-7\*\* や V-BOX にも 3ピンと 6ピンのものがあります。原則としてこれらは統一されていなければなりません。子機が RS-701 であればプレートは WP-2 であり、V-BOX も 3 ピンのまま使用するのが普通です。

もし子機が RS-702 であればプレートは WP-6 であり、V-BOX も 6 ピンに仕様変更する必要があります。そうしなければ 3ピンと 6ピンが混在することによって、接続ケーブルに特別なものを用意しなければなりません。

ただし、システムによってはあえて 3ピンと 6ピンを共存させることもあるかと思いますが、システムが難解になることは避けられません。

#### 共存の原則

- WP-2=3ピン ⇔ 3ピン=3ピンケーブル=3ピン ⇔ 3ピン=RS-701/V-BOX3ピン
- WP-6=6ピン ⇔ 6ピン=6ピンケーブル=6ピン ⇔ 6ピン=RS702/V-BOX6ピン
- × WP-2=3ピン ⇔ 3ピン= ≠ =6ピン ⇔ 6ピン=RS702/V-BOX6ピン
- × WP-6=6ピン ⇔ 6ピン=6ピンケーブル=6ピン ≠ 3ピン=RS-701/V-BOX3ピン

以上を参照に、異なるピン数のプレートとステーションが混ざっている場合には、本当にそれでよいのかを確認するようにしてください。

### ●ターミネーションって何？

ターミネーションとは簡単に言ってしまうと“アースをとる”というようなイメージです。技術的な内容になってしまいますので詳細については述べませんが、クリアカムシステムにおいてはチャンネルごとに1つのターミネーションが必要となります。例えば MS-702 や PS-702 を用いた2チャンネルのシステムでは2つのターミネーションとなり、MS-704 や SB-704 では4つのターミネーションとなります。

このターミネーションは親機(メインステーション)や電源(パワーサプライ)によって行われるようになっています。通常、親機や電源はターミネーションが ON となった状態で出荷されますので、親機または電源のいずれか 1 台のみを使用しているシステムの場合は特に気にする必要はありません。

問題となるのは親機や電源が複数用いられる場合や親機と電源が組み合わせて使用される場合などです。この場合2ヶ所以上でターミネーションされてしまう(ダブルターミネーション)ことがあり、動作不良を起こす原因となります。ですからその場合はどこか1ヶ所のみでターミネーションするようにしてください。ターミネーションの ON/OFF は機種によっても設定の方法が異なりますので、マニュアル等を参照し ON/OFF の設定を行ってください。

ターミネーションがオフの状態や複数ターミネーションの場合はコールランプが正常に動作しなかったり、レベル異常が発生したりするなどの動作不良の原因となります。もし、システムが正常に動作しない場合は正しいターミネーションがなされているかの確認も行うようにしてください。

### ●何で3本線のの？

クリアカムはいわゆる2線式と呼ばれるインターカム・システムです(この他に3線、4線式等がありますが詳細については技術的な内容となってしまいますので触れません)。

2線のうち1本は電源線でもう1本が音声線となります。この2本をシールドで包んだ2芯シールド線の使用が必須となります。単線3本での接続は不可となります。

以上となりますが、その他ご不明な点につきましては、担当者までお問合せください。

また、Clear-Com インターカム・システムには本説明の Encore パーティーライン以外にも Eclipse マトリックスシステム、HelixNet デジタルパーティーライン、FreeSpeakII、DX デジタルワイヤレスシステムなど複数のシステムがあり、それぞれに注意すべき点があり、必ずしも本説明が該当しない部分もありますので、システム構築の際にはしれそれぞれに適した方法を採用して下さるようお願いいたします。



松田通商株式会社

2016.09.06

V3.Rev.1